介護テクノロジーの社会実装研究

- ▶ 介護テクノロジーの開発と商品化がAMED事業等で支援されてきた
- ▶ 社会実装には多様な要因が影響することが知られている
- ▶ 実装研究の知見を介護テクノロジーの社会実装に適応する

実装研究

- ■ 実装研究：エビデンスプラクティスギャップを埋めて、研究成果を社会に実装することを目指す研究領域
  - ■ エビデンスプラクティスギャップ：再現性の高い研究成果のエビデンスが得られても、社会実装の段階で成果を再現できないこと
- ■ 実装研究の種類の例
  - ■ 実装戦略を作る：実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）など
  - ■ 実装結果を評価する：実装アウトカム（REAIM）など

エビデンス構築の支援

- ■ 介護テクノロジー分野へ新規参入する事業者も多い
- ■ エビデンス構築のための評価を支援する必要がある
- ■ AMED事業でガイダンス作成『評価の準備と実施の手引き』を作成して公開（介護テクノロジーポータルサイト）





介護テクノロジーポータルサイトでは、評価に関するガイダンスだけではなく、安全な機器の開発に向けた支援文書も公開しています

実装プロセスの支援

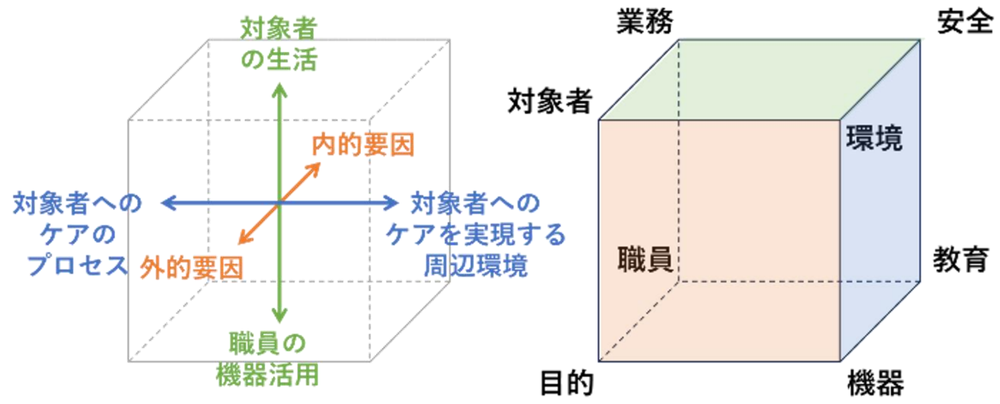
- ■ 実装時に適切な意思決定ができないケースもある
  - ■ 例：十分な検討をせずに導入し、結果的に使われない
- ■ 導入検討時に必要な8つの観点とチェックシートを作成して報告書を公開（産総研HP）

介護分野での実装研究の活用例

- ■ 介護テクノロジー導入の好事例から促進因子、阻害因子を特定（例：リフト等導入の好事例の分析より）
  - ■ 促進因子の例：
    - ■ I-C 相対的優位性：「高齢の職員でも働ける」
    - ■ III-D-1 変化への切迫感：「スタッフの腰を守る」
    - ■ V-A 計画：「施設全体への展開は計画的に進める」
  - ■ 阻害因子の例：
    - ■ I-D 適応性：「対象者が限定される」「使用環境との相性がある」
    - ■ I-H 費用：「簡単に買い替えできる金額ではない」
    - ■ III-E-2 利用可能な資源：「限られた台数を使いまわし」

外的要因の分析

- ■ 介護分野における腰痛予防対策の分析
  - ■ 局長通知として多くの腰痛予防対策指針など
- ■ 業務上腰痛に関する先行文献の調査
  - ■ 保健衛生業（特に社会福祉施設）の件数多い
  - ■ 小規模な事業所（労働者数10-49人）の件数多い
  - ■ 小規模な事業所に対する支援が必要ではないか



2024年4月26日公開
「介護現場におけるテクノロジーの効果的活用のための
評価手法検討委員会」最終報告書
（https://www.aist.go.jp/aist_j/news/announce/au20240426.html）

RiHSA 人間社会拡張研究部門

梶谷　勇
情報・人間工学領域 人間社会拡張研究部門
生活機能ロボティクス研究グループ
連絡先：M-rihsa-liaison-ml@aist.go.jp, isamu.kajitani@aist.go.jp

25 ANNIVERSARY

産総研
ともに挑む。つぎを創る。